

## ④鉄道車両メンテナンス業

現在、ほとんどの電車車両には空調設備が搭載されており、定期的にフロンを回収してメンテナンスが実施されます。

1台の空調機には、5～15kgのフロンが充填されており、そのフロンの処理として破壊処理か簡易再生処理の方法が行われています。

エコサイクルを使用した場合と比較してみました。

破壊処理	簡易再生処理	エコサイクル使用
回収装置でフロンを回収した後破壊処理を実施して新品のフロンを充填する。	フロンを回収する際、簡易再生装置内蔵型のフロン回収装置で回収し、簡易再生されたフロンを充填する。	フロンを回収する際、回収と再生ができるエコサイクルを使用し、再生されたフロンを充填する。
<b>メリット</b>		
新品のフロンを使用するので、冷却能力が元に戻る。	フロンの破壊費+新品フロン購入費 <hr/> 30,000～40,000円の <b>削減</b>  集中式の場合、1車両あたり1～2ユニット車載費 <hr/> 60,000～80,000円の <b>削減</b>	フロンの破壊費+新品フロン購入費 <hr/> 30,000～40,000円の <b>削減</b>  集中式の場合、1車両あたり1～2ユニット車載費 <hr/> 60,000～80,000円の <b>削減</b>
<b>デメリット</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>●フロンの破壊費</li> <li>●新品フロン購入費</li> <li>●集中式の場合、1車両あたり1～2ユニット車載費</li> </ul> <hr/> 90,000～120,000円の経費がかかる	『簡易再生方式』のため、再生されたフロンの品質が完全ではない。これは、空調機のトラブルの原因となりやすいばかりでなく、冷却能力を悪化させる要因にもなる。	再生されたフロンが高純度のため、トラブルになりにくい。  直接液状フロンを回収再生するため、高純度にもかかわらず高速で処理が可能。